

CS こひつじ科礼拝式次第

2022年10月30日 午前9時30分

2022年度年間テーマ：「イエス様の祈り『主の祈り』によって、祈ることを身につけよう」

テーマ曲：ワワワいっしょに（92番）

暗唱聖句：「あなたの御言葉は、わたしの道の光 わたしの歩みを照らす灯。」

詩編 119編105節

5、かみさまは（こどもさんびかをお用いください）

おいのり 礼拝に招かれたことを感謝しましょう

せいしよ 出エジプト記40章16節

「モーセは主が命じられたとおりにすべて行った。」

おはなしとおいのり

「神さまが命じられたとおりの礼拝」

狩野照乃先生

おはようございます。朝晩の冷え込みが一段と深まってきました。季節の変わり目で体調を崩すことのないように気を付けたいものですね。先月からモーセさんの聖書箇所、旧約聖書の出エジプト記を学んでいます。今回は最後の章で、モーセさんとイスラエルの人たちが神さまによってエジプトから救い出されたあとの、荒れ野での旅のお話です。

『主はモーセに仰せになった。第一の月の一日に幕屋、つまり臨在の幕屋を建てなさい。あなたはそこに掟の箱を置き、垂れ幕を掛けて箱を隔て、机を運び入れ、その付属品を並べ、燭台を運び入れて、ともし火をとます。更に、掟の箱の前に香をたく金の祭壇を置き、幕屋の入り口には幕を掛ける。また、焼き尽くす捧げ物の祭壇を幕屋、つまり臨在の幕屋の入り口の前に据え、洗盤を臨在の幕屋と祭壇の間に据え、これに水を入れる。周囲には庭を設け、庭の入り口に幕を掛けなさい。』（出エジプト記 40:1-8）

次に神さまがモーセさんに言われたことは、幕屋とその中のすべてのものに聖別の油を注ぐことと、『アロンとその子らを臨在の幕屋の入り口に進ませ、水で清め、祭服を着せ、油を注いで聖別し、わたしに仕える祭司としなさい。彼らがこのように、油を注がれることによって、祭司職は代々にわたり、永遠に彼らに受け継がれる。』（出エジプト記 40:12-15）ということでした。

モーセさんは神様から命じられた通りにすべてをおこないました。

モーセさんがその仕事を終えたあと、『雲は臨在の幕屋を覆い、主の栄光が幕屋に満ちた。モーセは臨在の幕屋に入ることができなかつた。雲がその上にとどまり、主の栄光が幕屋に満ちていたからである。雲が幕屋を離れて昇ると、イスラエルの人々は出発した。旅路にあるときはいつもそうした。雲が離れて昇らないときは、離れて昇る日まで、彼らは出発しなかつた。旅路にあるときはいつも、屋は主の雲が幕屋の上であり、夜は雲の中に日が現れて、イスラエルの人々の家の人に見えたからである。』（出エジプト記 40:34-38）

雲は、神さまがおられることの目に見えるしるしです。神さまは霊でいらっしゃいますから人間の目には見えません。そこで神さまは、雲をご自身が一緒におられることとしるしとして、人間の目にも見えるようにしてくださったのです。この「臨在の幕屋」は、神さまがイスラエルの人たちと一緒にいてくださる場所、そしてイスラエルの人たちが神さまを礼拝する場所として与えられたものなのです。

『しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。神は霊である。だから、神を礼拝する者

は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。』(ヨハネによる福音書 4:23-24)これはイエスさまがサマリアの女性と話した時の御言葉です。今、私たちが教会学校の礼拝をしていてもモーセさんの時のように雲がこの部屋を覆うことはありません。しかし、神さまは教会で語られた御言葉を通して、今も私たちに語りかけてくださっています。神さまはいつでも私たちと一緒にいてくださっているのです。

明日 10 月 31 日は宗教改革記念日です。聖書の教えに従って神さま中心の礼拝をすること、人間が作りだしたものを拝んではいけないこと、そして、神さまのご命令に従って礼拝をすることがどんなに大切かということ覚えて、霊と真理をもって礼拝をささげましょう。

お祈り：今も生ける主なる神さま、今週も御言葉を学ぶときを与えてくださり感謝します。あなたはイスラエルの人々を奴隷状態から救い出してください、掟を与えられ、救いの道へと導いてくださいました。そして「モーセは主が命じられたとおりにすべてを行った」ように、私たちも掟を守って、礼拝するときは霊と真理とをもって礼拝することができますように。今週も神さまにすべてを委ねて、お互いを思いやり、喜びの中で、主と共に歩んでいくことができますように。私たちの救い主イエスさまのお名前を通してお祈りします。アーメン。

※ () は聖書箇所、『 』は新共同訳聖書の引用です。

子どもカテキズム問43～問50

問43：かしらであるキリストは、御自分の教会のために何をしてくださいますか。

こたえ：かしたであるキリストは、聖霊によって神さまの子どもたちと共にいて、礼拝の恵みにあずからせてくださいます。母の胸に抱かれるように、私たちが養い育て、守りつつ、救いの完成へと導いてくださいます。

問44：教会の交わりの中で養われたわたしたちの使命は、何ですか。

こたえ：イエスさまは教会に、全世界に出て行って福音を宣べ伝えること、困っている人を助けること、大地を大切に治める使命を与えられました。私たちは神さまの子どもとして、いつでもどこでもこの使命を果たします。

問45：礼拝に集まるのは、どうして週の初めの日曜日なのですか。

こたえ：その日にイエスさまが復活されたからです。神さまにまねかれ、毎週この日に集まることによって、今も復活のイエスさまが聖霊において私たちと共にいてくださることを確信させてくださいます。

問46：教会の礼拝で、私たちは何をしますか。

こたえ：教会の礼拝で、私たちは神さまと交わり、神さまをあがめ、神さまを喜び、賛美します。聖書朗読と説教をきき、聖礼典をおいおいします。また、お祈りをし、讃美歌を歌い、信仰を告白し、献金をささげて教会の働きにつかえます。

問47：今も生きておられる復活のイエスさまは、どのようにして礼拝において共にいてくださるのですか。

こたえ：復活し、天におられるイエスさまは、特にご自分の恵みを与える方法を用いて、聖霊において共にいてくださいます。

問48：恵みを与える方法とは何ですか。

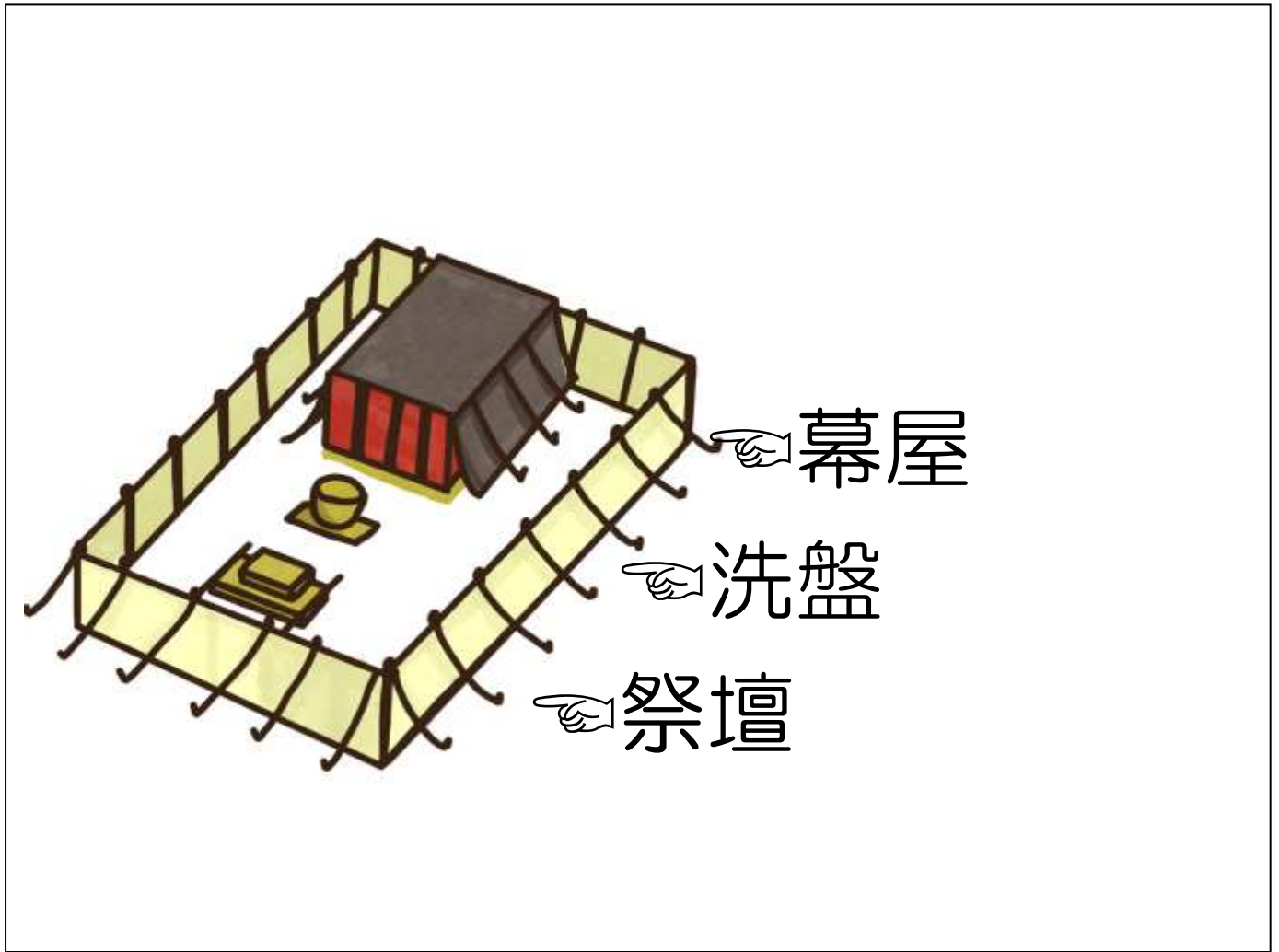
こたえ：御言葉と礼典と祈りです。イエスさまは、特にこの三つの方法を用いて、聖霊において私たちと共にいてくださり、救いの祝福を豊かに与えてくださいます。

問49：恵みを与える方法としての御言葉とは何ですか。

こたえ：聖書の朗読と説教です。これらを用いて、イエスさまは、聖書によって私たちに語りかけてくださいます。ですから、よく備えて礼拝に出席し、御言葉を受け入れ、心にたくわえ、毎日聖書を読み、御言葉に従うことが大切です。

問50：恵みを与える方法としての礼典とは何ですか。

こたえ：イエスさまが礼典としてお定めになった聖霊と聖餐(主の晩餐)です。



* 小さなお子さまには、話の内容等をわかりやすく、年齢に合わせて噛み砕いてお話くださいますようお願い致します。

(けんきん) 会堂2階掲示板下の机に献金箱を設置しました。

おいでの際におささげください。

40、かみよ このひ (こどもさんびかをお用ください)